

2025 年度の募集にあたって

「第7次エネルギー基本計画」が閣議決定され、2040年に向けたエネルギー政策の方向性が示されました。DXやGXの進展に伴うデータセンターによる電力需要の増加が見込まれる中、再生可能エネルギーの最大限の導入とバランスのとれた電源構成を目指し、エネルギー安定供給、経済成長、脱炭素、の3つを同時に実現することとしています。

「2050年カーボンニュートラル」の実現には、産業構造の抜本的な転換が求められることから、「GX実現に向けた基本指針」のもと、水素・アンモニア、蓄電池など22の分野に今後10年間で150兆円超の官民投資を呼び込むこととしており、GXに向けた投資の予見性を高めるため策定された「GX2040ビジョン」、「地球温暖化対策計画」と一体となって進められます。

現在、年間約11億トンものCO₂を排出している日本が「2050年カーボンニュートラル」を達成するためには、従来の取り組みの延長線上だけでは困難であり、これまでのビジネスモデルや戦略を根本から変える新たな技術イノベーションが求められます。技術イノベーションでは、“非連続”へ挑戦することになりますが、歴史を振り返れば、逆境や厳しい制約が新たな発明、新たな方法論などを生み出してきた事績は枚挙に暇がありません。困難に怯むことなく挑戦する次世代を担う新進気鋭の皆さまの新しい発想と気概が大きく期待されるところです。

当財団では、電気・エネルギー分野における世界トップレベルの研究者を世に送り出すことを目的に、自由な発想・創意工夫で未来にチャレンジする研究機会の提供を通じて、創造的な基礎研究への研究助成を行って参りました。助成者からは自由な発想で研究に取り組める機会を与えて頂ける非常に有用な助成であるのご意見を頂戴しております。

このたび2025年度の研究助成の公募を開始しました。研究助成（基礎）では、①広く電気・エネルギー分野に関わる原理、技術の向上革新を目指す基礎研究、②異分野との融合、新技術の活用による新たな社会システムの構築を目指す統合型研究の2つが対象です。前者は蓄電池、太陽光発電、風力発電、水素、次世代革新炉（小型原子炉（SMR）など）、放射線工学、カーボンフリー発電など原理、技術の革新向上を目指す基礎研究が該当します。後者は情報通信・モビリティなど異分野との融合、AI、ブロックチェーンなどの新技術を活用した電力システム（アグリゲーション、配電網含む）の高度化、水素などのエネルギーの新たな社会システムの構築、省エネなどエネルギー利用の効率向上、環境に関わる革新的な研究です。また、国際技術交流助成では、助成基準額を引き上げるとともに、国際会議での学術発表に加え、関連する研究機関訪問による技術打合せを推奨しています。電気・エネルギーは、電気・電子のみならず、材料、化学、メカトロニクスなど幅広い学問分野と繋がっています。幅広い分野からの応募をお待ちしております。

助成対象

原理、技術の革新を目指す基礎研究

蓄電池
太陽光発電
風力発電
水素
次世代革新炉
カーボンフリー発電
センサー など

新たな社会システムの構築を 目指す統合型研究

異分野との融合・新技術を活用した
電力システムの高度化
水素などの新たな社会システムの構築
省エネなどエネルギー利用効率の向上
グリーン環境技術
など



学問分野